

## コミュニケーション支援アプリの改修について

### 1 経緯

- 第1回専門部会（書面開催）において、アプリ内の「病院・薬局」の項目拡充のため、「薬に関する絵カード」の内容を盛り込むことについてご審議いただいた。
- 委員から、ろう者当事者、支援者の立場として、以下の反対意見が出されたため、第3回専門部会において事務局案をお示しし、再度審議することとした。

#### [反対意見]

- ・病院・薬局において、命に関わる内容を説明する際には、手話通訳が必要であり、絵カードでのコミュニケーションは、ろう者として不安が大きく、反対である。病院・薬局は、手話通訳が必要であることを知っておくべきである。
- ・このアプリがどのような場面で利用されるか分からないが、ろう者にはいろいろな人がいることを考えると安易にアプリで「説明した」「通じた」と判断される可能性があり、不安を感じる。

### 2 「薬に関する絵カード」の作成趣旨

（豊橋手話ネットワーク 聴覚障害者対応「薬に関する絵カード」等案内書 より抜粋）

#### ■『薬に関する絵カード』の説明

私たちは、障害当事者関係団体として防災訓練に参加する中で、行政機関、消防署、自衛隊、医師会、薬剤師会など様々な立場で避難所運営にかかわる方々との連携の必要性を感じてきました。この「薬に関する絵カード」は、応急救護所の運営訓練に参加した際に、薬剤師会の方と情報交換をさせていただいたことがきっかけで、制作することになりました。

応急救護所では、病気や怪我、薬に関するやり取りが行われますが、医学的な内容で専門用語も多いため、理解しづらく、正しく伝わらないことがあります。「絵カード」を一緒に制作する過程で、手話や筆談によるコミュニケーションを必要とする人たちの存在や、言語の違いによりコミュニケーションが取りづらく、伝える側から見れば、理解されていると思っても、実際には伝わっていないケースがあることを薬剤師の方々に認識していただくことができました。

この「絵カード」は、病院や薬局でも使用できる内容となっています。「絵カード」の活用によって、手話通訳や筆談だけではイメージしづらかったことをイメージしやすくし、理解度を高めることが期待できます。障害の特性に応じたコミュニケーション方法の具体的事例の一つとして、支援の輪が広がる一助となれば、幸いです。

### 3 事務局案

- 「薬に関する絵カード」は、手話通訳や筆談といった、聴覚に障害のある方のコミュニケーション手段の重要性を踏まえたうえで、絵や文字などを使って、より理解度を高めることを期待して作成されたものである。
- 豊橋手話ネットワークの取組は、関係者間にその共通認識があるが、本アプリの利用者には、その共通認識が伝わらないことも想定されるため、アプリ利用者に障害の特性に応じたコミュニケーション手段の重要性を周知する必要がある。
- このため、アプリのトップページ最上段に、以下の説明を加えたうえで、内容を盛り込むこととしたい。

「このアプリでは、絵や文字を指し示すことによってコミュニケーションを図ることができます。障害のある方に対応される場合には、まずは、手話、筆談、絵カードなど、その方のコミュニケーション手段を確認していただいたうえで、このアプリを補助ツールとしてご活用ください。」